

鏡野「味覚祭」 15、16日販売

今年目標「100万円」



プールから水揚げし販売を待つニシキゴイ

来月、総社でも計画

津山商高津山市山北の生徒が、授業の一環で観賞用として養殖しているニシキゴイを15、16日、鏡野町円宗寺の町物産館・夢広場である「味覚祭」で販売する。この時期の恒例行事で、今年は売り上げ目標の「100万円」を達成しようと、12月には3年目を迎えるシンガポールに加え、総社市での販売も初めて計画している。

同校は教員が設立した組合組織「TSUS HOI Farm」を母体に、使わなくなったプール（縦25尺、横15尺）を活用し、2007年から養殖事業を本格化。味覚祭のほか、12年からはシンガポール

ルでも現地の業者の協力を得てコイを販売している。

本年度は地域ビジネス科3年生対象の授業「ベンチャービジネス」を選択する31人が「社員」となり、「昭和三色」と呼ばれるコイの稚魚約千匹を約4カ月かけて育てた。10月下旬には生徒15人がプールでコイの水揚げ作業を実施。体長10〜15センチに成長したコイを網で次々と捕獲し、消毒用の水槽に移し替えた。

する予定。
「社長」の平居春佳さん(17)は「夏休みも交代で毎日餌をやるなど大切に育ててきた。多くの皆さんに楽しんでほしい」と話している。(竹久祐樹)

味覚祭では、1匹100〜700円と市価の半値以下で提供される。総社市では12月7日に農マル園芸吉備路農園(同市西郡)、シンガポールには同13、14日に生徒約10人と教員が赴き、現地のコイ取扱店で約70匹を販売